

令和 3 年度

静岡県後期高齢者医療広域連合
各会計歳入歳出決算審査意見書

静岡県後期高齢者医療広域連合監査委員

04 静後広監第 11 号

令和 4 年 6 月 24 日

静岡県後期高齢者医療広域連合長

齊藤 栄 様

静岡県後期高齢者医療広域連合

監査委員 今井 信義

監査委員 馬場 衛

**令和 3 年度静岡県後期高齢者医療広域連合各会計歳入歳出決算の審査
意見について**

地方自治法第 233 条第 2 項の規定により、審査に付された令和 3 年度静岡県後期高齢者医療広域連合一般会計・特別会計歳入歳出決算及び関係書類についてそれぞれ審査したので、その結果について、静岡県後期高齢者医療広域連合監査基準第 13 条第 4 項に基づき次のとおり意見書を提出します。

目 次

第 1	審査の対象	5
第 2	審査の期間	5
第 3	審査の方法	5
第 4	審査の結果	5
第 5	決算の概要	6
1	総括	6
(1)	決算の規模	6
(2)	決算の収支状況	6
(3)	予算の執行状況	7
2	一般会計	8
(1)	決算の概要	8
(2)	予算の執行状況	8
3	特別会計	10
(1)	決算の概要	10
(2)	予算の執行状況	10
4	財産に関する調書	12
(1)	基金	12
第 6	意見	12

第1 審査の対象

- 1 令和3年度静岡県後期高齢者医療広域連合一般会計歳入歳出決算
- 2 令和3年度静岡県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算
- 3 上記決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書

第2 審査の期間

令和4年6月8日から令和4年6月24日まで

第3 審査の方法

静岡県後期高齢者医療広域連合長から提出された一般会計及び特別会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書について、静岡県後期高齢者医療広域連合監査基準に準拠し、諸帳簿類と照合するとともに、定期監査及び例月出納検査の結果を参考にしながら、必要に応じて関係職員から説明の聴き取りを行い、次のとおり主眼を置き審査した。

- (1) 計数は、正確であるか。
- (2) 予算の執行は、適正かつ効率的になされているか。
- (3) 財産は、適正に運用・管理されているか。

第4 審査の結果

各会計歳入歳出決算書等については、いずれも関係法令に準拠して作成されており、計数については、諸帳簿類と符合して正確であると認められ、予算の執行については、おおむね適正かつ効率的になされていると認められた。

また、財産に関する調書に記載された現金の計数は正確であり、おおむね適正に運用されていると認められた。

その概要及び意見は、後述のとおりである。

注意

※ 文中及び各表中の金額は、円単位で計算したものを、原則として千円未満で四捨五入したため、合計数と一致しない場合がある。

※ 文中及び各表中の比率は、原則として少数点以下第2位を四捨五入した。ただし、執行率等が99.95%以上100%未満の場合99.9%とし、100%超100.05%未満の場合、100.1%としてある。

また、構成比の合計は100%になるように一部調整してある。

第5 決算の概要

1 総括

(1) 決算の規模

各会計における決算額は、次のとおりである。

歳入 456,952,940 千円（予算現額に対する執行率は 99.3%）

歳出 441,830,905 千円（予算現額に対する執行率は 96.0%）

歳入歳出決算総括

（単位 千円）

区分	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額
一般会計	125,171	116,068	9,103
特別会計	456,827,769	441,714,837	15,112,932
合計	456,952,940	441,830,905	15,122,035

令和3年度の一般会計及び特別会計における予算規模は、総額 460,357,910 千円であった。

各会計が予算全体に占める割合は、一般会計が 0.1%、特別会計が 99.9%となっている。

(2) 決算の収支状況

平成26年度からの決算の収支状況は次のとおりである。

（単位 千円）

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
A 歳入総額	379,499,795	395,215,605	398,776,386	411,785,431
B 歳出総額	364,044,676	382,846,471	388,608,708	403,503,936
C 形式収支 (A-B)	15,455,119	12,369,135	10,167,678	8,281,495
D 翌年度へ繰り越すべき財源	0	0	0	0
E 実質収支	15,455,119	12,369,135	10,167,678	8,281,495

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
A 歳入総額	422,362,274	438,821,902	440,421,132	456,952,940
B 歳出総額	410,168,745	428,333,648	419,628,097	441,830,905
C 形式収支 (A-B)	12,193,529	10,488,254	20,793,035	15,122,035
D 翌年度へ繰り越すべき財源	0	0	0	0
E 実質収支	12,193,529	10,488,254	20,793,035	15,122,035

注) 1 形式収支とは、現金ベースでの収支の結果を示すもので、当該年度中に収入された現金（歳入総額）から支出された現金（歳出総額）を単純に差し引いたものである。

2 翌年度へ繰り越すべき財源とは、翌年度繰越額から事業の繰越しに伴う国庫補助金等の未収入特定財源を差し引いたものである。

3 実質収支とは、形式収支から翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いたものである。

(3) 予算の執行状況

ア 歳入の状況

歳入予算の執行状況は次のとおりである。

(単位 千円・比率 %)

区分	年度	予算現額		決算額		対予算比率	対調定比率	不納欠損額	収入未済額	予算現額と決算額の比較
		金額 (構成比)	調定額	金額 (構成比)	調定額					
一般会計	2	128,140	128,138	128,138	99.9	100.0	0	0	△2	
		(0.1)		(0.1)						
	3	125,171	125,171	125,171	99.9	100.0	0	0	0	
		(0.1)		(0.1)						
特別会計	2	439,448,401	441,545,413	440,292,994	100.2	99.7	14,460	1,237,958	844,593	
		(99.9)		(99.9)						
	3	460,232,739	458,010,841	456,827,769	99.3	99.7	2,416	1,180,656	△3,404,970	
		(99.9)		(99.9)						
合計	2	439,576,541	441,673,551	440,421,132	100.2	99.7	14,460	1,237,958	844,591	
		(100.0)		(100.0)						
	3	460,357,910	458,136,012	456,952,940	99.3	99.7	2,416	1,180,656	△3,404,970	
		(100.0)		(100.0)						

収入済額は456,952,940千円で、その予算現額に対する執行率は99.3%(一般会計99.9%、特別会計99.3%)とおおむね予定どおりとなっている。また、調定額に対する収入率は99.7%となっている。

イ 歳出の状況

歳出予算の執行状況は次のとおりである。

(単位 千円・比率 %)

区分	年度	予算現額		決算額			翌年度繰越金 (繰越明許費)	不用額	予算現額と決算額の比較
		金額	構成比	金額	構成比	執行率			
一般会計	2	128,140	0.1	124,404	0.1	97.1	0	3,736	3,736
	3	125,171	0.1	116,068	0.1	92.7	0	9,103	9,103
特別会計	2	439,448,401	99.9	419,503,694	99.9	95.5	0	19,944,707	19,944,707
	3	460,232,739	99.9	441,714,837	99.9	96.0	0	18,517,902	18,517,902
合計	2	439,576,541	100.0	419,628,097	100.0	95.5	0	19,948,444	19,948,444
	3	460,357,910	100.0	441,830,905	100.0	96.0	0	18,527,005	18,527,005

支出済額は441,830,905千円で、その予算現額に対する執行率は96.0%(一般会計92.7%、特別会計96.0%)とおおむね予定どおりとなっている。また、不用額は18,527,005千円で、予算現額の4.0%となっている。

2 一般会計

(1) 決算の概要

令和3年度の一般会計の予算規模は、総額 125,171 千円であり、これに対する決算額は、次のとおりである。

ア 歳入 125,171 千円（予算現額に対する執行率は 99.9%）

イ 歳出 116,068 千円（予算現額に対する執行率は 92.7%）

この差引残額（形式収支）9,103 千円は、翌年度に繰り越している。

(2) 予算の執行状況

ア 歳入の概況

歳入の内訳は次のとおりである。

（単位 千円・比率 %）

区分（款）	項目	予算現額	調定額	収入済額	収入未済額	予算現額に対する収入済額の増減	執行率 （対予算現額）
1	分担金及び負担金	121,428	121,428	121,428	0	0	100.0
2	財産収入	1	1	1	0	0	63.0
3	寄附金	1	0	0	0	△1	0.0
4	繰越金	3,734	3,735	3,735	0	1	100.1
5	諸収入	7	8	8	0	1	108.7
	歳入合計	125,171	125,171	125,171	0	0	99.9

予算現額 125,171 千円に対し、収入済額 125,171 千円で、予算現額に対する執行率は 99.9%、調定額 125,171 千円に対する収入率は 100.0%となっている。

歳入の主な内容は、関係市町の負担金 121,428 千円となっている。

イ 歳出の概況

歳出の内訳は次のとおりである。

(単位 千円・比率 %)

区分(款) \ 項目	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率 (対予算現額)
1 議会費	1,464	746	0	718	51.0
2 総務費	119,972	112,587	0	7,385	93.8
3 諸支出金	2,735	2,735	0	0	99.9
4 予備費	1,000	0	0	1,000	0.0
歳出合計	125,171	116,068	0	9,103	92.7

予算現額 125,171 千円に対し、支出済額 116,068 千円で、予算現額に対する執行率は 92.7%となっている。

歳出の主な内容は、広域連合派遣職員人件費 63,567 千円、広域連合事務所賃借料 27,184 千円となっている。

3 特別会計

(1) 決算の概要

令和3年度の特別会計の予算規模は、総額 460,232,739 千円であり、これに対する決算額は、次のとおりである。

ア 歳入 456,827,769 千円（予算現額に対する執行率は 99.3%）

イ 歳出 441,714,837 千円（予算現額に対する執行率は 96.0%）

この差引残額（形式収支）15,112,932 千円は、翌年度に繰り越している。

(2) 予算の執行状況

ア 歳入の概況

歳入の内訳は次のとおりである。

（単位 千円・比率 %）

区分（款）	項目	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	予算現額に対する収入済額の増減	執行率 (対予算現額)
1	市町支出金	82,614,235	82,704,642	82,704,642	0	0	90,407	100.1
2	国庫支出金	139,652,157	139,493,582	139,493,582	0	0	△158,575	99.9
3	県支出金	37,061,409	36,402,747	36,402,747	0	0	△658,662	98.2
4	支払基金交付金	179,164,714	176,577,732	176,577,732	0	0	△2,586,982	98.6
5	特別高額医療費 共同事業交付金	185,691	194,613	194,613	0	0	8,922	104.8
6	寄附金	1	0	0	0	0	△1	0.0
7	繰越金	20,789,300	20,789,300	20,789,300	0	0	0	100.1
8	県財政安定化 基金借入金	1	0	0	0	0	△1	0.0
9	諸収入	765,231	1,848,224	665,152	2,416	1,180,656	△100,079	86.9
	歳入合計	460,232,739	458,010,841	456,827,769	2,416	1,180,656	△3,404,970	99.3

予算現額 460,232,739 千円に対し、収入済額 456,827,769 千円で、予算現額に対する執行率は 99.3%、調定額 458,010,841 千円に対する収入率は 99.7%になっている。

歳入の主な内容は、社会保険診療報酬支払基金による後期高齢者交付金 176,577,732 千円、国による療養給付費等負担金 105,110,421 千円となっている。

イ 歳出の概況

歳出の内訳は次のとおりである。

(単位 千円・比率 %)

区分(款) \ 項目	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率 (対予算現額)
1 総務費	1,046,490	931,206	0	115,284	89.0
2 保険給付費	436,716,378	426,925,358	0	9,791,020	97.8
3 県財政安定化基金 拠出金	164,080	164,080	0	0	100.0
4 特別高額医療費 共同事業拠出金	223,175	199,553	0	23,622	89.4
5 保健事業費	2,053,261	1,452,642	0	600,619	70.8
7 公債費	6,313	0	0	6,313	0.0
8 諸支出金	12,050,634	12,041,999	0	8,635	99.9
9 予備費	7,972,408	0	0	7,972,408	0.0
歳出合計	460,232,739	441,714,837	0	18,517,902	96.0

予算現額 460,232,739 千円に対し、支出済額 441,714,837 千円で、予算現額に対する執行率は 96.0%となっている。

歳出の主な内容は、保険給付費が 426,925,358 千円と全体の 96.7%を占めており、そのほかには、関係団体への償還金などの諸支出金が 12,041,999 千円である。

4 財産に関する調書

財産に関する調書の内訳は、次のとおりである。

(1) 基金

財政調整基金

(単位 千円)

区分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
現金	63,294	1	63,295

第6 意見

審査に付された令和3年度静岡県後期高齢者医療広域連合一般会計及び後期高齢者医療事業特別会計の歳入歳出決算並びに同附属書類は、いずれもその計数は正確であった。

会計別に見ると、一般会計については、予算現額125,171千円に対し、歳入総額125,171千円、歳出総額116,068千円で、執行率はそれぞれ歳入予算99.9%と歳出予算92.7%となり、実質収支は9,103千円の黒字であった。

広域連合の運営に係る人件費や事務費が、構成市町の負担金を財源としていることに鑑み、引き続き経済的かつ効率的な事務執行に努められたい。

後期高齢者医療事業特別会計については、予算現額460,232,739千円に対し、歳入総額456,827,769千円、歳出総額441,714,837千円で、執行率はそれぞれ歳入予算99.3%と歳出予算96.0%となり、実質収支は15,112,932千円の黒字であった。

歳入においては、後期高齢者医療財政の健全な運営を図るためにも、補助金等の活用による財源の確保に努められたい。

また、被保険者間の負担の公平性を保つ観点から、収納対策の着実な推進に努めるとともに、不正請求に伴う返還金又は自己負担割合差額等の返還金については、督促後の催告の強化による収入未済額の縮減に今後も励まれたい。

一方、歳出において、その96.7%を占める保険給付費は、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えなどから転じ、前年度に比べ15,744,235千円増加しており、今後も、団塊の世代の加入による被保険者数の増加や、高度先進医療の普及などにより、一層の増加が見込まれる。

このような中、レセプトや療養費支給申請書の点検強化、ジェネリック医薬品の利用促進、被保険者調査等の徹底による不正請求抑止など、引き続き医療費の適正化に向けた取組に、より一層注力願いたい。

また、被保険者の健康の保持増進及び健康寿命の延伸を図るため、データヘルス計画に掲げる各種事業の着実な実施や、介護予防との一体的実施事業の拡充などにより、保健事業をより効果的かつ効率的に推進していく必要がある。

今後とも、制度改正を踏まえた適切な予算編成及び予算執行に留意しつつ、被保険者が安心して医療を受けることができるよう、安定的かつ継続的な制度運営に努力されたい。